

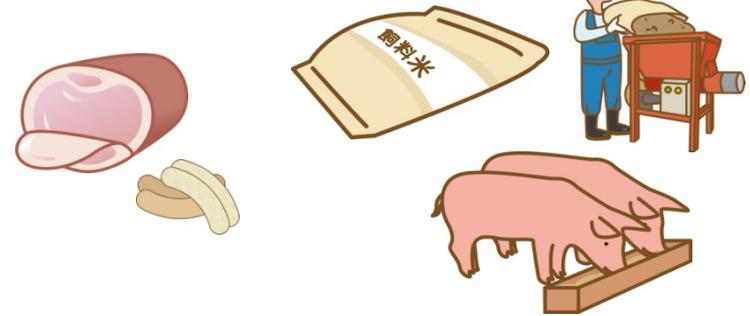
地域の畜産農家と畜産関係者が連携する畜産クラスター事例⑥ 神奈川県

かながわ銘柄豚肉推進協議会

飼料用米利用による豚肉の品質向上と地産地消による消費拡大の取組による収益力向上を実現

畜産クラスター

- ・銘柄豚肉出荷養豚農家(生産者調整等)
- ・全農神奈川県本部畜産部(技術指導等)
- ・神奈川県環境農政局農政部畜産課(技術支援等)
- ・神奈川県畜産技術センター(技術支援・普及指導)
- ・神奈川県畜産会(技術支援・経営支援)
- ・神奈川県畜産振興会(技術支援)
- ・(株)横浜ミート(技術支援・消費拡大等支援)
- ・神奈川県養豚協会(事務局)



実証内容

○銘柄豚肉の有利販売を促進するため、銘柄豚肉指定飼料の一部を飼料用米に置き換え、品質向上生産実証試験を流通業者や消費者等のアンケートによる品質の評価を得ながら実施。

実証試験結果や消費拡大イベントの開催により、県下銘柄豚肉の販売促進を図り、生産者の収益力を向上

効果

【販売頭数の増加】

銘柄豚肉生産グループにおける銘柄豚肉としての出荷頭数
43,800頭 → 50,000頭 14%増

【高付加価値化】

飼料用米利用による付加価値の向上
イベント開催による認知度の向上による販売店の増加

地域全体で12.9百万円の収益増

【地域の収益性向上】

6,200頭数 × 77kg × 27円※
=12.9百万円

※H25の銘柄豚と非銘柄豚の枝肉価格の差額